

# 連作障害を回避する取組の例

	土壌改良資材・有機物(堆肥、もみ殻等を含む。)の施用 ※散布量は10a当たりの目安です	土壌に係る薬剤の散布	後作緑肥の作付け	病害虫抵抗性品種	横手市農業再生協議会が連作障害を回避する取組と判断する取組
麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌改良:pH6.0~6.5に矯正  転炉炭カル 概ね40~80kg</li> <li>■有機物施用による地力増強  堆肥 概ね0.5t~1.0t  鶏糞 概ね45~90kg</li> </ul>				<p>【全共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌診断に基づく土づくり</li> </ul>
大豆	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌改良:pH6.0~6.5に矯正  転炉炭カル 概ね30~60kg</li> <li>■有機物施用による地力増強  堆肥 概ね0.5t~1.0t  鶏糞 概ね45~90kg</li> </ul>				<p>【麦・大豆・そば共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「大豆-麦-そば」の2年3作体系による連作の回避と農耕地の高度利用</li> </ul>
そば	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌改良:pH6.0前後に矯正  炭カル 概ね25~50kg</li> <li>■有機物施用による地力増強  堆肥 概ね0.5t~1.0t  鶏糞 概ね45~90kg</li> </ul>				
野菜	<ul style="list-style-type: none"> <li>■堆肥(地力の維持等)の施用  :ニュー・スーパーコン、牛糞堆肥、豚糞堆肥、鶏糞堆肥、バーク堆肥、もみ殻堆肥、菌床堆肥、カプトムシ堆肥など</li> <li>■有機質資材の施用  :稲わら、籾殻、麦稈、そばわら、大豆かす、キチン質資材など</li> <li>■土壌改良剤の施用  ●スイカ(普通栽培の場合):苦土石灰(粒)100kg、マルチサポート1号40kgなど  ●アスパラガス(露地の場合):土の素ユーキ225kg、グリコーカ(粉)100kgなど  ●キュウリ(露地の場合):おがるくん2(90kg)、セルカ48(100kg)、ライフグリーン60kg、粒状チャンス60kgなど  ●ねぎ:苦土石灰(粒)100kg、石灰窒素(粒)40kg、ストロングバランス100kgなど  ●そら豆:レオグリーン特号200~300kg、スーパー炭素200~400g、BMよりりん(粒)40~60kg、苦土石灰(粒)120kgなど  ●枝豆(中生作型の場合):レオグリーン特号200kg、苦土重焼燐20kg、苦土石灰(粒)140kg、フミカルアップ100kg、卵殻エース20kgなど  ●トマト:北海ピート、ピートモス3.8Q、シエルカン・パワー、卵殻エース、苦土石灰、マルチサポート1号、FTEなど</li> <li>■有機質肥料の使用:有機アグレット666、有機アグレット816、バイオエースなたね粕、味のふるさと園芸肥料など</li> <li>■石灰窒素による殺菌</li> <li>■てんろ石灰による土壌pH矯正:きゅうりホモプシス根腐病予防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌消毒(キュウリ、トマト・ピーマン・花き・ほうれん草、食用菊など)  :クロルピクリン剤、ダゾメット剤、D-D剤など</li> <li>■土壌処理薬剤  ●根こぶ病  :ネビジン剤、フロンスサイド剤など  ●チョウ目害虫  :ジュリボ剤、プレバソソ剤など  ●コガネムシ類  :ダイアジノンSLゾル剤など  ●アスパラガス疫病  :ユニフォーム粒剤など</li> <li>■苗箱処理剤  ●根こぶ病  :オラクル顆粒水和剤、ランマンフロアブルなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■緑肥作物  :イネ科(エンバク類、ライムギなど)、マメ科(ヘアリーベッチ、クローバー類など)、その他(マリーゴールド、カラシナなど)</li> <li>■除塩作物  :トウモロコシ、ソルガムなど</li> <li>■施設栽培夏秋品目の後作(除塩対策)  :冬期間ほうれん草・アスパラ菜・チンゲン菜等の作付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■接ぎ木苗の利用(スイカ、キュウリ、トマト、ナスなど)</li> <li>■土壌病害抵抗性品種(根こぶ病: CROO、萎黄病: YROO、など)</li> </ul>	<p>【大豆・枝豆共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■種子消毒:クルーザーMAXXなど  乾燥種子1kgに対して規定量の8ml塗布を厳守(排水対策等、耕種的防除法との併用がより望ましい。)</li> </ul> <p>【野菜・花き共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌消毒(太陽熱土壌消毒、還元土壌消毒)</li> </ul>
花き	<ul style="list-style-type: none"> <li>■堆肥(地力の維持等)の使用:ニュー・スーパーコン</li> <li>■土壌分析結果を活用した土壌改良剤の施用  :てんろ石灰、DL消石灰、苦土石灰(粒)、畑のカルシウム、70粒状消石灰、ストロングバランス、よりりん(粒)、エスアイフミン、レオグリーン特号、ネバリン、スーパーベラボン、ケイントップなど</li> <li>■有機質肥料の使用  :有機アグレット666、有機アグレット816、バイオエース、なたね粕など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土壌消毒剤  :クロルピクリン剤、ダゾメット剤、ホスチアゼード剤など</li> <li>■土壌処理薬剤  :ユニフォーム粒剤など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■後作に緑肥作物(エンバク類、クローバー類など)の作付</li> <li>■除塩作物(ソルガムなど)の作付と持ち出し</li> <li>■施設栽培夏秋品目の後作(除塩対策)  :冬期間ほうれん草・アスパラ菜・チンゲン菜等の作付</li> </ul>		

※取組の実施時期や施用量・散布量に基準はありません。連作障害が発生しないよう、ほ場の状況に応じて取り組んでください。